

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年11月25日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2791700020
法人名	有限会社 フレンド
事業所名	グループホームフレンド天王寺
所在地	大阪市天王寺区味原町15番11号 (電話)06-6774-5010

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成20年11月6日

【情報提供票より】(平成20年10月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年1月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	14人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	3階建ての	2階～	3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	78,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(700000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400円	昼食 600円
	夕食	600円	おやつ 100円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年10月10日現在)

利用者人数	18名	男性	10名	女性	8名
要介護1	5名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.5歳	最低	66歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	喜多岡医院、かいだ歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同区内の別の場所でデイサービス等、介護保険事業の運営実績がある営利法人が運営するグループホームで、同一建物内に小規模多機能型居宅介護、ケアプランセンター、福祉用具販売の事業所が併設されています。「地域の中で、その人らしく暮らす」「地域に密着した尊厳のある生活」「その人がその人らしく暮らす」を理念として定め、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう家族、職員と共に支えています。利用者は医療連携している協力医院と大阪府訪問看護協会の看護師から、必要な医療と看護の支援を受けながら生活しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 今回は初めての外部評価受審です。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は法人代表が原案を作成し、職員の意見を入れて完成させ、サービスの向上に取り組もうとしています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、地域包括支援センター職員、地域代表、利用者、家族の参加のもとで、3～4ヶ月に1回のペースで開催しています。会議ではホームの活動方針や運営状況について説明をし、地域の催しに参加し地元の人達と交流することについて話し合っています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族との面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の健康や安全に関わる事項については、その都度家族へ電話で報告をしています。預かり金については出納帳を作成し、収支と残金について定期的に家族へ報告し確認を得ています。家族とは面会時にできるだけ会話をし、家族が希望や願い、不満を表せるように対応し家族の意見を表せる機会を設けています。今後ご意見箱を設置する予定です。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域とのつきあいについては新立地へ進出して開設後、日が浅いこともあり、地域の関係機関との会議に出席したり、運営推進会議を通じて地域との交流を始めつつありますが、未だ十分な成果をあげていません。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中で、その人らしく暮らす」「地域に密着した尊厳のある生活」「その人がその人らしく暮らす」を理念として定め、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう家族、職員と共に支えています。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を明文化し掲示しています。毎日の職場ミーティングや日常の業務等を通じて理念を共有し、理念に沿った介護サービスの実践に取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	地域とのつきあいについては、新立地へ進出して開設後、日が浅いこともあり、地域の関係機関との会議への出席や、運営推進会議を通じて地域との交流を始めつつありますが、未だ十分な成果をあげていません。	○	今後、地域の人々との交流が図れるよう努力することが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての外部評価受審です。自己評価は法人代表が原案を作成し、職員の意見を入れて完成させ、サービスの向上に取り組もうとしています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域包括支援センター職員、地域代表、利用者、家族の参加のもとで、3～4ヶ月に1回のペースで開催しています。会議ではホームの活動方針や運営状況について説明をし、地域の催しに参加し地元の人達と交流することについて話し合っています。	○	運営推進会議は年6回、もしくは概ね2ヶ月に1回開催することが求められます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員とこまめに情報交換をしながら事業所の運営にあたるとともに、市主催の事業者連絡会にも参加しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の健康や安全に関わる事項については、その都度家族へ電話報告をしています。今後ホームからの報告や利用者の暮らしぶりを紹介した便りを発行し、家族に送付してはいかがでしょうか。預かり金については出納帳を作成し、収支と残金について定期的に家族へ報告し確認を得ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時にできるだけ会話をし、家族が希望や願い、不満など意見を表せる機会を設けています。今後ご意見箱を設置する予定です。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設後の日が浅く職員体制が落ち着かず流動的な状況とはいえ、職員の総数に比べ、退職者の割合が多くなっていますが、残った職員の頑張りや新人職員の採用で利用者への影響は最小限に抑えられています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修と内部研修で「感染症」や「緊急時対応」、「認知症」などの研修を年に6回以上実施しています。また研修資料を残し、ミーティングの際、職員に伝達しています。採用時研修マニュアルにより新人研修を実施しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム事業所連絡会に参加して情報交換を行い、地域の介護保険事業者やケアマネジャーとも交流し、サービスの質の向上に取り組んでいます。今後グループホーム間で職員同士の相互の見学や研修を実施されてはいかがでしょうか。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者のサービス開始前には、職員が家庭訪問をしたり、利用者や家族が事業所に来訪したりして見学や体験利用の機会を設け、家族や本人の不安を取り除き、馴染みながらサービスが受けられるように取り組んでいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごし、学び支えあう関係を目指した支援を行っています。編み物の得意な方、漢字の読み取りの得意な方等利用者の得意な分野でその力を発揮してもらい、家事や行事の機会を通して、学び支え合う関係を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	開設後、日の浅いホームですが、初期のアセスメントを行いケアに反映しています。アセスメントについて、介護度の高い利用者が多い状況で、心身の状況だけではなく毎日の生活を通じて得られる利用者の生活歴や暮らし方の意向などについて、新たな気づきの記録と見直し、整理を行い、日々のケアや暮らし、楽しみに活かしてははいかがでしょうか。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の現在の暮らしや、心身の状況を把握し、家族や利用者の思いや要望を反映させた介護計画を作成しています。介護計画については家族の承認も得ています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月毎に、また状態の変化がある時はその都度見直しを行っています。計画作成担当者は毎日のミーティング結果や支援経過記録をモニタリングし、ケアチェック表を作成し、家族と医師が参加するサービス担当者会議を開き、利用者や家族の希望を聞いて介護計画の見直しにつなげています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	利用者は医療連携している協 力医院の医師と大阪府看護師 会の訪問看護師から、必要な 医療と看護の支援を受けていま す。家族の依頼により、必要の 都度通院介助も行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られた、かか りつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受け られるように支援している	診療科目によっては入居以前 の、かかりつけ医療機関から 引き続き医療を受けている利 用者がいます。協力医院と連 携し、夜間や急変時の対応に ついての体制整備も整ってい ます。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方 針の共有 重度化した場合や終末期のあ り方について、できるだけ早 い段階から本人や家族等なら びにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有 している	利用者・家族には看取り実施 の方針を説明し、同意を得て います。現在看取りを行って いる利用者がいます。重度化 した場合や終末期のあり方につ いては、早い段階から利用者 や家族の意向を聞き、状況の 変化とともに、利用者と家 族、医師、ホームとの話し合 いを行い意向の確認を続けて いく予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。個人情報の取り扱いについても職員に書面で周知徹底しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと暮らせるよう支えています。職員が利用者を制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。利用者のペースに合わせて、食事の場所や食事の時間に柔軟な対応をしています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常、昼食と夕食は食材業者から調理済みの食材を取り寄せ、ご飯と味噌汁はホームで準備しています。週に1回は食材を食材業者以外のものを利用する工夫をしています。夕食時晩酌や喫煙を楽しむ利用者もいます。職員は利用者と同じ物を食べながら、利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しくなごやかな雰囲気を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3日入浴している利用者もいますが、大半が介護度の高い利用者でそれぞれの希望や身体状況に合わせて、週1～2日程度の入浴になっています。また入浴できない日に清拭を行い、清潔に保つための支援を行っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	介護度の高い利用者が多く、かつ男性利用者の多いホームで、開設後、日の浅いこともあり、それぞれの利用者の楽しみや気晴らしの把握がこれからという面も見受けられますが、読書や漢字の読み取りが得意な方、編み物の好きな方、晩酌や喫煙を好む方等もおられ支援しています。さらに今後はホームでの花作りや外出、外食等の実施を予定しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一部の利用者を除いて、戸外への外出の機会はない状態になっています。ホームでは今後人員も確保し、戸外への外出支援を行う計画をしています。	○	利用者一人ひとりの希望を聞きながら、戸外への外出支援をすることが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解し ており、鍵をかけないケアに取り組ん でいる	玄関扉とエレベーターには鍵がかかっていま す。	○	鍵をかけないケアについての議論と理 解を深め、日中の時間帯は鍵をかけず見 守りによる対応ができるよう努力する ことが求められます。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身 につけ、日ごろより地域の人々の協力 を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルを作成し、年内に消防 署の指導で避難訓練の実施を予定していま す。非常・災害時の食料品と水の備蓄につい ては実施していません。	○	今後は年に2回以上、消防避難訓練を実 施することが求められます。非常・災害 時に備えて2～3日分の食料品や水を 備蓄することが求められます。また備蓄 については「非常用備蓄マニュアル」等 の取り決めを作成してはいかがでしょ うか。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている	利用者毎に食事摂取量と水分摂取量の記録を とっています。栄養バランスについては、食 材業者の管理栄養士からアドバイスを受け ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	商店が多く交通の便利なところに立地し、小規模多機能型居宅介護事業所を併設する3階建ての建物は洒落た外観で、建物の周囲には緑や花があり、玄関には花や観葉植物、東南アジア製の風変わりな椅子が置かれ、訪ねやすい雰囲気になっています。リビング兼ダイニングルームは広く明るくて、見通しのきくすっきりしたレイアウトで、食卓以外にも落ち着けるソファや座れる和机があり、テレビや観葉植物も置かれ、ゆったりとした落ち着いた雰囲気の空間になっています。今後はもう少し季節感の感じられる空間にする工夫をされてはいかがでしょうか。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が思い思いのベッドやカーテンを取り付け、整理タンス、飾り棚、本箱、冷蔵庫、電話、写真、装飾品等使い慣れた馴染みの古い物や生活用品を持ち込み、安心して過ごせる居場所となっています。しかし、一部では持ち込みの家具などがほとんどない居室もあるため、今後は利用者や家族と相談しながら支援していくことが望まれます。		